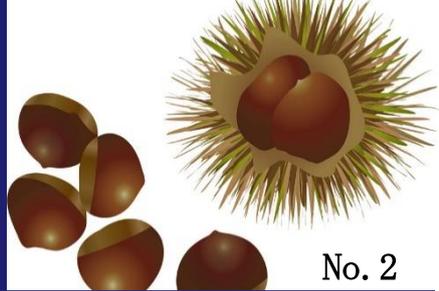


協力隊通信：美和地域

岩国市美和総合支所 農林建設課

地域おこし協力隊 沖野 修吾

TEL0827-96-1112



No. 2

今回は着任後、具体的な活動に入るまでの過程を時系列でご報告します。

ミッションである「岸根ぐり」の生産基盤強化に際して、生産者の高齢化や人員減少が大きく取り上げられていました。実際には栗を栽培する栽培地の減少や樹木の老木化も問題になっていました。

■ 人の手が掛けられないから減っているの？

- それもありました...ほっておけば実が生るようになっているかもしれませんが、土壌の堆肥や雑草の芝刈り、防除、剪定やカットバックなど、継続的に手をかけてあげないと樹木の樹勢は弱くなっていきます。



植えてから3年ぐらいで収穫ができるようになり10年経つ頃が一番収穫量が多くなり、それから少しずつ老木化してゆき、多くのものは40～50年ぐらいで衰弱を迎えるものが多いそうです。

■ 産地振興には新しく植える活動を推進すればいいの？

- もともと栗の栽培は主な農作物以外に斜面で育てられる副業的な作物の位置づけにあったようです。その為、栗だけで生計を立てている大規模な栗農家さんはこの地域にはいません。
- 小さな農家さんは今更お金をかけて古い木を掘り起こし、新しく植えて3年は収穫がない事に二の足を踏んでいるように思います。



■ 新植・改植に際しての問題！

- 熱心な農家さんは少しずつですが、老木化した木の横で新植を行っています。そんな時、耳にするのは上手く根付かない、枯れてしまうといった新たな育成の難しさです。

■ 苗木が定着しない原因はなんなの？

まだこれだといった原因を聞いたことはありません。お聞きした事から推測すると

- 買って来た苗自体があまり育ちが良くない。
- 農協は売り切れていたのでも量販店の苗を買ってきた。
- (農協では毎年100本ぐらいしか提供できないとのこと)
- 長年栽培しているので土壌がどうなっているのか分からない、知りたい
- 近年の気温や雨量などの気候変動に対応できないのではないかなどです。



圃場内にひこばえが生えていれば、そこに接木する手もあります

圃場内に若木やひこばえが生えていれば
その樹木を台木として利用し
系統樹の穂木を接木して
岸根ぐりの改植を行うことも出来ます。
時期は桜の開花時期に合わせて行うと
タイミングが良いそうです。
系統樹の穂木は農協で販売しています。



系統樹ってなんなの？

困っている苗木のことを調べると、

昭和30年代、思い思いの接木では系統の乱れが多いことから、本物の岸根ぐり優良苗木の普及をはかろうと県普及所と町が中心となり、原木林から接木し育成した栗園から選抜樹として210、211、212、213、原木林から直接110を選び出し、県指導園と町営クリ母樹園を開設し、その地で接木・育成されたそうです。

県・町以外にもクリ生産組合、苗木生産組合、熱心な生産者の方々など非常に多くの方々の努力と継続で、系統の正しい岸根ぐりが守られてきたのだと知りました。

産地振興の具体的な活動目標

- 少しずつ、自分の活動も課題や目標が見えてきました。
- 市母樹園が衰退しており、系統樹が存続できない状態を改善する。
- 母樹園の改修計画と併せ、系統樹の苗木育成を行い後世に繋げていく。
- 剪定やカットバックなどの重労働支援にはチェーンソーなどの機械や資格が必要。
- 栽培地の管理支援で刈払機の取り扱い資格が必要。
- 剪定するための見る目や技術の習得。
- 土壌についての知識を習得し、脆弱な土地は改善支援していく。
- 施肥をするための調査や肥料設計経験など

自身の基礎知識習得

刈払機取扱作業安全衛生教育
伐木等の業務に係る特別教育講習
農業機器に必要な資格所得
営農塾で栗栽培について受講
土壌についての知識習得

系統樹の保全・伝播

母樹園の整備
台木の育成
系統樹の穂木採取と接木
母樹園の土壌調査と改修
系統樹の伝播

栗の育成は何年もかかる作業で、その年にできることは限られていますが、今後何十年、何百年絶やさず、繋いでいく力になればと思っています。